

# 「地域らしき体感して」

## 九国大でシンポ 清水慎一氏が講演

北九州の観光や魅力について考えるシンポジウム「観光を支える、地方創生。」(九州国際大主催)が10月26日、八幡東区の同大KIUホールであった。地方都市の街づくりに詳しい「観光地域づくりプラットホーム推進機構(東京)」の清水慎一会長が講演した。

シンポには、学生や地元企業の関係者ら約150人が参加した。清水会長は大手旅行会社JTBの常務だった経験から「旅のスタイルは団体ツアーから自由な個人客へと変化している」と指摘。多くの人に訪れてもらうには一部の企業や行政だけではなく、街全体で取り組む必要があると訴えた。

近年急増しているインバウンド(外国人旅行者)については、「地域らしさを生かし、体感してもらう」とがりピーターの増加につながる」と説明。北九州でも「歴史や伝統文化を生かし、産学官の垣根を越えて議論すべきだ」と力を込めた。



地方都市の観光について語る清水慎一氏

## 北九州の観光戦略考える

### 「欧米富裕層を狙え」

#### 女性市民団体が提案

10月26日に開かれた九国大主催のシンポジウム。清水氏の講演などのほか、働く女性を中心にした市民グループ「感度の高い企業女性」が提案する地方創生@北九州」のメンバーらによるパネルディスカッションもあった。

テーマは「欧米富裕層を北九州の観光戦略について意見を交わしたパネルディスカッション」

狙う観光戦略」。グループの発起人で日本航空北九州空港所の佐藤由美子所長は「中国人などの『爆買い』に終わりが見える中、遠くから来た客ほど滞在期間が長く消費単価も高い」と指摘。昨年10月にフランス客船の旅行者を日本舞踊や菓子作りでもてなし、手応えを感じたことを紹介した。

街の魅力をどうPRするか。小倉織のブランド」



上田

西日本新聞北九州本社の甲木正子営業部長は「ぶっさらぼうに見えておせっかいな市民気質がある。一声かける勇氣と、街の歴史などを一つでも説明できれば誰もが案内人になれる」と述べた。